NPO法人関西演芸推進協議会　会報誌

笑ライブ 第19号

2014年9月

walive

「笑ライブ」とは…「笑」、「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

【発行】
NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
<事務局>
大阪市浪速区難波中1-10-4
千房株式会社内
TEL.06-6633-1430
FAX.06-6633-1435
http://www.walive.org
info@walive.org

INFOMATION

会員の皆様には、いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。暑い夏が終わると共に、協議会では「関西演芸しゃべくり話芸大賞」の準備が大詰めを迎えます。第3回となる今年の賞レースでは、どのような熱戦が見られるでしょう?皆様のご観戦も出場者のモチベーションを高めます。ぜひとも足をお運び頂きたくお願い申し上げます。また、この夏には東北復興支援事業として、笑学ワークショップを仙台にて行って参りました。東北の子どもたちに関西の「笑い」が届けられたことは私どもの活動にまたひとつ、歴史を刻むことができました。このように一歩、一歩確かな歩みを踏みながら、「芸人を育て、よりよき鑑賞者を育てる」という趣旨のもと、活動を推進してまいりますので、相変わりませず、ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

CONTENTS

☆新春例会 ……1頁
☆講演「芸人を育てるということは?」
☆「舞台から風を感じる」
☆関西演芸推進協議会「女性会」のご案内 ……2頁
☆報告（総会・夏期例会） ……3頁
☆PICK UP「梅田MAG」
☆「笑学」のご案内　他 ……4頁

新春例会　難波スイス会・心学明誠舎 共催

2014年1月20日（月）
於）スイスホテル南海大阪

新春の交流を華やかに飾った3団体の共同開催による豪華な5つのお年玉企画

一年のスタートを飾る新春の宴に、昨年の難波スイス会の共催に加わり、今回は「心学明誠舎」の皆さまにもご参加頂いての3団体での開催となり、豪華な例会となりました。

5つの「お年玉企画」としては、オープニングでは、創作新日本舞踊「佳卓（よしたか）流」の花魁道中での艶やかな登場と舞踊の披露ではじまり、今宮戎神社の福娘による福徳祈願、大起水産による「マグロの解体ショー」、ゴスペル集団「without you」による歌のパフォーマンス、アジア文化芸術連盟指導者、李鴻繻（リ・コウジュ）先生による平成26年の干支である馬の水墨画の即興描写など、皆さまへのご多幸を祈念するすばらしい行事になりました。

どの企画も素晴らしく、視覚・聴覚・味覚に美しく、ご参加いただいた会員の皆さまからの歓声が響き、会場を終始にぎやかに、また、会員の皆さまとは和やかな交流がはかられました。

Report　笑学ワークショップ in 宮城県【東北復興支援事業　特別協力 株式会社JOSHO】

笑いを通してコミュニケーション

宮城県での笑学ワークショップは大盛り上がりでした。
松竹芸能、若手芸人の土方兄弟が子ども達の前でネタを披露。
その後は希望する子どもとコンビを組んで簡単なネタをみんなの前で披露!東北の子どもたちに「笑い」を届け、子どたちの新鮮な笑顔と触れて、充実の巡業となりました。

好評開催中!　笑学

漫才のワークショップでボケとツッコミ体感！子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ります。

いじめや学級崩壊など教育現場では様々な問題がありますが、その原因の一つに子どもたちのコミュニケーション能力の不足があると私たちは考えています。伝えたいことをきちんと伝えることが出来るなどコミュニケーションがしっかり取れれば、いじめにつながりそうな出来事も未然に解決されるのではないでしょうか。そこで、まさにデジタル世代の小学生に対して、関西の演芸文化の真骨頂である漫才からボケとツッコミを体感してもらい、相手の話を聞き、話の展開を読む力や互いの信頼関係を構築していくアナログのコミュニケーション力「笑学」を体験できるワークショップを企画いたしました。この企画は、松竹芸能株式会社のご協力のもと、私たち関西演芸推進協議会のプロデュースにより、無償にてワークショップを実施しております。

主催：特定非営利活動法人関西演芸推進協議会
協力：日本財団、松竹芸能（株）、相互タクシー（株）、（株）小学館集英社プロダクション、ダイドードリンコ（株）、（株）寺岡精工、東京海上日動火災保険（株）、千房（株）
対象：大阪府下の小学校　（募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定）

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

PICK UP　梅田MAGから発信

会員 西田孝廣さん

次世代を彩る知性・感性豊かな人材が自発的に集い、「未来」を創造する磁場(Magnetic Field)

前職でハービスHALLと言う大きな展示場と貸会議室を運営していた頃、リーマンショックのあと、借りてくれる企業が激減しました。どこか利用してくれるところがないか東奔西走していた時、社内の先輩の紹介で講談作家の大谷邦郎さんと知り合う機会がありました。その席で展示場や会議室が稼働していない事を話すと、大谷さんが「会議室で講談をやってみない?」と言われたことが、関西演芸推進協議会に入会するきっかけでした。

「漫才」「落語」はわかっても、「講談」と「浪曲」の違いもわからないまま、夜の会議室で女流講談師・旭堂小二三さんを招いての初の講談は、お客様は少なかったものの、自分にとってそれは新鮮で熱い体験でした。それから不定期で講談のみならず漫才、落語、パフォーマンスなどを行い、普段は企業が就職セミナーや商談で利用する会議室が、夜は演芸の場と変わりました。出演された芸人さんとも話す機会ができ、今の大阪では演芸を披露する場が非常に少ないことなど、いろんな課題がわかり、自分の業務で少しは解決できるのではと思い、演芸が好きなことと相俟って、関西演芸推進協議会に入会しました。

昨年の4月から、異動で梅田MAG（マグ）の担当となりましたが、これは阪神電鉄の梅田の活性化に向けた取り組みの一つで、関西のおける知的人材の育成や企業支援、異業種交流を目的とした組織です。MAGと言いますのは人が自発的に集まる磁場（Magnetic　Field）を目指すことから名付けられました。

梅田MAGでは、知的人材を誘致するためにいろいろなセミナーや催事を行っておりますが、その一つとして、マスコミなどで話題になる旬な題材を取り上げ、その関係者を招いて聴衆も参加できる「梅田MAGサミット」を開催しております。「3Dプリンタ」や「イクメン」と言ったテーマに加えて「伝統文化」と言う切り口で芸人を招き、聴衆の方々には目の前で演芸を楽しんでもらっています。

日進月歩の技術で次々と新しい製品やサービスが世の中に出る反面、披露する場所が無く、廃れる可能性がある誇るべき関西の演芸を次世代に残せるよう、これからも少しでも力になれればと思っております。

阪神電気鉄道株式会社　開発営業室　西田孝廣　梅田MAG　HP:https://umeda-mag.net/

関西の上質な演芸文化のために…

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動を一緒にしませんか…

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思っています。

公式ウェブサイトもご覧ください。　http://www.walive.org　笑らいぶ　検索

関西演芸推進協議会は文化庁の関西元気文化圏事業に参加しています。

関西から文化力 POWER OF CULTURE

編集後記

お盆の頃に今回の会報誌の編集作業をしておりました。お寺の住職にお経を頂きながら、今号で紹介した大谷徹奘さんのご法話を思い出していました。御仏を前に「よっぽどの縁」の意味を思い巡らせながらの、お盆らしい休日となりました。すべては「幸せになるために」の人生という修行なのかなぁ～と…間もなく「しゃべくり話芸大賞」も開催されます。季節の移ろいと共に生きる喜びと実りの秋を。。。（編集部・廣田）

推進会議

ゲスト　大谷邦郎氏（毎日放送　人事局　キャリア推進部長 兼 講談作家）

厳しく優しく、見守る「愛」で育む

2014年3月19日（水）於）ハービスPLAZA

当協議会の趣旨である「芸人を育て、よりよき鑑賞者を育てる」に沿って「芸人を育てると言うことは？」をテーマに毎日放送の大谷邦郎さんにご講演いただきました。当協議会のイベント「笑らいぶ」で司会をされた時も、芸人さんを紹介するために事前に楽屋でヒアリングをされたりと、いつも的確な情報発信を心がけてこられてきた姿を見てきました。また、ご本人が本業とは別に「講談作家」としてご活躍されているという経緯もあり、芸に対する眼差しには非常に熱いものがある中、芸人さんに、そして鑑賞者である私たちに歯に衣着せぬ物言いでその善し悪しをやわらかい物腰ながら適宜ズバッと指摘。しかし、その背景では、がんばっている芸人さんには無償の愛（？）でサポートするという優しい一面を垣間みることができました。ご講演を挟んで受講者によるテーブルディスカッションが行われ「芸」を取り巻く環境が昔と変わってきたことや、当協議会の指針である「上方演芸文化継承」についての課題が話し合われたりと、内容充実の約２時間を過ごさせて頂きました。また、先に開催予定の「関西演芸しゃべくり話芸大賞」にゲストとして車いすダンスのエンターテイメントショーで参加いただく「ジェネシス　オブ　エンターテイメント」の皆さまもご参加いただき、大谷さんの「芸人育て術」を実証（笑）される一幕もあるなど、協議会として大変実りのある推進会議となりました。

寄稿　「舞台から風を感じる」

講談作家兼サラリーマン　大谷邦郎

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「中学生の時に赤信号の交差点に目をつむって飛び込んだことがある」。そう話すのは安藤広二、車椅子ダンスチーム「ジェネシスオブエンターテイメント」のダンサーだ。今でこそ笑顔の多い安藤だが、中学時代には自殺を考え、実行もしたのだ。原因はいじめ。ただ、幸いにして車たちはクラクションを激しく鳴らしながらも安藤の乗る車いすの横を間一髪ですり抜け、あるいはすんでのところで止まった。安藤は交差点を渡りきり、結局自殺は未遂に終わった。その時の心境をこう語る。「当時は辛いことばかりやった。いじめられていることを親に言えないし、先生に言っても仕方ない。先生に言うとただエスカレートするだけ。だから、もうええわと」

安藤は3歳の時から車いす生活を余儀なくされている。脊椎骨が形成不全を起こす二分脊椎症と言う病気で下半身が麻痺しているからだ。小学生時代には車いす用トイレの扉を蹴って開けられたことなど何度もある。トイレの上から水をかけられたこともある。さらに階段の上から落とされたこともある。「自分だけなんでやろ？」と彼は自分の世界に閉じこもるしかなかった。しかし、23歳の時に車いすダンスと出会う。車いすの操作には自信のあった安藤は、最初からクルクルと回ることが出来た。安藤は言う。「風が気持ち良かった。車いすが回ることによって起こる風が気持ち良かった」と。けれど、このチームの特徴は障害者だけにあるのではない。障害者と健常者が、支え支えられながら演技を披露するのだ。例えば、健常者ダンサーが手を携えて車椅子ダンサーがターンをする。10秒間に実に13回回転をした。驚いた。こちらまで風を感じた。舞台の良さは、画面を通してでは伝わらない。舞台の良さは観客席からでしか感じられないのだ。そんな彼らの舞台を見てみないか。10月11日・大丸心斎橋劇場。第3回関西演芸しゃべくり話芸大賞の舞台で、さぁ、彼らの華麗なダンスを体感しよう。

ジェネシスオブエンターテイメント

INFORMATION　関西演芸推進協議会「女性会」発足のご案内

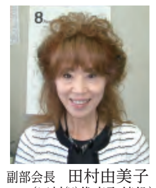
この度、関西演芸推進協議会では、「女性会」を発足いたしました。
本会は、「芸人を育て　より良き鑑賞者を育てる」という協議会の目的に沿って、女性ならではの洗練された視点によって、演芸を上質な文化として鑑賞する機会を増やし、時代のニーズにあった演芸文化の可能性を模索することで、協議会の事業の活性化と会員相互の親睦と連携を図ることを目的とします。事業としての内容は、以下の通りです。

（1）洗練された感性の演芸イベント等の企画・運営する
（2）上質な笑いと場を共有し、新鮮な演芸の魅力を発掘する
（3）社会や企業とコラボする演芸文化を創造する

ご入会に関するお問い合わせは事務局まで…

NPO法人関西演芸推進協議会 女性会＜事務局＞
大阪市浪速区難波中1-10-4　千房株式会社内　TEL.06-6633-1430　FAX.06-6633-1435　info@walive.org

部会長　開高みどり
（㈱エイトオプティク代表取締役社長）



副部会長　田村由美子
（田村㈱代表取締役）

「通常総会開催」

●第1部：総会
●第2部：記念講演「幸せの条件」講師：大谷徹奘氏

「身・心・安・楽」幸せになる為に…

2014年6月17日（火）於）スイスホテル南海大阪

総会に先駆けて理事会を5月15日に15名の出席で開催。1年の事業報告にはじまり、新年度の事業計画案を会員の皆様にご承認いただく年度行事も今回で第7回となりました。通年行事も「笑学」や「しゃべくり話芸大賞」が充実、更には東北での笑学ワークショップを開催する等のご報告もでき、皆様の温かいご支援を改めて感謝いたします。

第２部では、奈良・薬師寺執事　大谷徹奘さんのご講演を拝聴。「幸せになるために」をテーマに、薬師寺の住職、高田好胤に師事されていたことをはじめ、ご自身の修行体験や震災でお寺の再建に苦労された話、また震災によって考えや行動に大きな変化があったことなど、熱くご法話いただきました。

話の核となった「幸せの条件」としての4つの言葉「中今」、「身心安楽」、「よっぽどの縁」、「静観自得」を提言され、「身心安楽」とは、眼に見える世界『身』、目に見えない精神世界『心』、心安らかな様『安』、身体に心に楽を与える『楽』と、お経に出てくるこの言葉により人が心と身体を幸せに誘うという意味と共に、お経の大切さを学び知ることができました。また、人とのご縁、自分と自分の関係など、自分の心をわかる『悟り』を知ることなど、体験されてきた経緯を紐解くようにお話いただき、眼も耳も心も開きっぱなしの約90分、貴重な時間となりました。

じゃんけん大会で勝った方に大谷徹奘さん直筆の色紙がプレゼントされました

東北復興支援事業へのご寄付を頂いた株式会社JOSHO様に記念盾と表彰状を贈りました

「夏季例会（ビアパーティー）」

2014年7月29日（火）於）ニューミュンヘン難波店

毎年恒例のビアパーティー、今回はまたひと味違った趣向での開催となりました。
まずは、東北復興支援事業として笑学ワークショップに笑いを届けてこられた、司会の薗田さんと漫才師として同行いただいた土方兄弟のお二人、そして、この事業に支援いただいた株式会社JOSHOの井上さん、協議会事務局の堀之内さんから報告がありました。
今回のゲストには、東北で活躍いただいた「土方兄弟」を迎え、漫才を楽しませて頂きました。また、日本殺陣道協会による殺陣では、会員の煩悩を滅多斬りに…斬られた方はリアクションをしつつ、煩悩が払われました。美味しいビールを頂きながらの交流会で、会場も賑やかに盛り上がり、今秋に迎える「関西演芸しゃべくり話芸大賞」へのご協力もお願いしながら、この活気をそのまま繋ぎたいという思いで、暑い夏のひとときを会員のみなさまと楽しく過ごすことが出来ました。

今回は、「煩悩斬り」で皆さんの「煩悩」を捌いて頂きました。

乾杯のご発声をされる旭堂 南左衛門さん

女性会の案内をされる代表者のみなさん

煩悩斬りで可愛く（？）斬られる司会を務めた薗田さん

東北への笑学ワークショップで活躍された土方兄弟の漫才を楽しみました。